

第2回横浜市新羽地域ケアプラザ及び横浜市新羽コミュニティハウス指定管理者選定委員会会議録

| 日 時            | 平成30年4月10日(火) 午後4時から午後5時55分まで   |  |     |       |              |              |                |
|----------------|---|--|-----|-------|--------------|--------------|----------------|
| 場 所            | 港北区役所3階3号会議室  |  |     |       |              |              |                |
| 出 席 者          | 飯島委員、大谷委員、永野委員、西田委員、福松委員、松村委員   |  |     |       |              |              |                |
| 欠 席 者          | なし  |  |     |       |              |              |                |
| 開 催 形 態        | 公開（傍聴者なし）※ただし、議題2以降は非公開   |  |     |       |              |              |                |
| 議 題            | 1 面接審査<br>2 審査・選定   |  |     |       |              |              |                |
| 決 定 事 項        | <p>次の法人を指定候補者として港北区長に報告する。</p> <table border="1" data-bbox="318 627 1395 768"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>指定候補者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市新羽地域ケアプラザ</td> <td rowspan="2">社会福祉法人 横浜共生会</td> </tr> <tr> <td>横浜市新羽コミュニティハウス</td> </tr> </tbody> </table>  |  | 施設名 | 指定候補者 | 横浜市新羽地域ケアプラザ | 社会福祉法人 横浜共生会 | 横浜市新羽コミュニティハウス |
| 施設名            | 指定候補者   |  |     |       |              |              |                |
| 横浜市新羽地域ケアプラザ   | 社会福祉法人 横浜共生会  |  |     |       |              |              |                |
| 横浜市新羽コミュニティハウス |   |  |     |       |              |              |                |
|                | <p>会議の公開・非公開について、第1回選定委員会で決定したとおり、面接審査は公開とするが、その後の審査・選定は非公開とすることを確認。また、事務局より資格審査結果について報告。</p> <p>1 面接審査<br/>法人からのプレゼンテーション15分、質疑応答約20分で実施。</p> <p>○社会福祉法人 横浜共生会<br/>【法人によるプレゼンテーション】<br/>【質疑応答】</p> <p>(委 員) これまでの取組や成果は、よくわかった。ここで提示されているのはあくまで事業計画ですので、これからどう取組んでいくのかという目標を提案していただきたい。開設当初に掲げた目標は、ほぼ達成できたとのことだが、そこから約5年経過しており新しい課題も出てきていると思う。新しい課題として何を認識していて、また、その課題を解決するために新しい取組みがあれば伺いたい。</p> <p>(法 人) 合築施設の強みとして、利用団体には2層あり、趣味の団体とボランティアの団体がある。この両層の交流を活発にしていきたいと考えており、地域活動やボランティア活動にその力を活かせると考えている。団体登録は順調に増えており、コミュニティハウスの趣味団体がケアプラザのボランティア団体に移行してもらうために、きっかけを提案していくことが課題と考えている。また、新しい企画として「新羽カレッジ」を立ち上げ、登録団体を講師とした講座を開催し広く地域住民への還元につなげたい。</p> <p>(委 員) 事業計画書の中で、開設当初に掲げたキーワードがまだ発展途上と記載しているが、この意味を詳しく説明していただきたい。</p> <p>(法 人) 地域福祉保健計画や地域と進めてきた取組みは現在も継続中である。地域食堂、認知症サロン、コーヒーボランティアなど、今までの取組みは、ここ1、2年で芽吹いたばかりで、成果が出るにはまだ時間がかかると考えており、継続して努力していきたい。また、さらなるPRや交流を進め、各部門であたためている企画を打ち出していきたい。</p> <p>(委 員) ケアプラザ登録団体とコミュニティハウス登録団体は全く別物なのか。</p> |  |     |       |              |              |                |

(法 人) コミュニティハウス登録団体は趣味活動を行う団体で、ケアプラザ登録団体は地域活動や福祉保健活動を目的とした団体です。コミュニティハウス登録団体が趣味活動に留まらず、地域活動やボランティア活動に発展することで、ケアプラザ団体に移行していただき、活動場所がケアプラザに留まらず、地域活動の担い手となっていただきたいと思います。

(委 員) プレイルームや学習室の開放があるが、中高生の利用は毎日あるのか。

(法 人) 人数は多くないが毎日利用はある。学習室の貸室予約がある場合は、利用していない貸室を学習室として開放し、学習室の使用できる環境を整備している。

(委 員) 障害児の利用はあるのか、また、障害児に対する取組みはあるのか。

(法 人) ケアプラザでも障害児の取組みはあるが、障害児の利用は、ケアプラザではなく、主に5階の障害施設利用になる。

(委 員) 事故対応や防災について、今までの取組みと、これからどうしていったら良いと考えているのか。

(法 人) 大地震により火災が発生したことを想定して、年に2回避難訓練を実施している。訓練は、スタッフだけでなく、利用者にも参加いただいている。また、当施設は、豪雨の際に浸水想定エリアに入ることがわかってきており、浸水時の想定訓練を実施するとともに、周辺企業と連携関係を築き、避難者への対応を検討しているところである。

(委 員) マニュアルなどは整備されているのか。

(法 人) 防災マニュアルは整備している。また、震災時には、福祉避難所としても開設される可能性があり、昨年度は区と協力して福祉避難所の開設訓練も実施している。

(委 員) 地域特性、地域ニーズの分析について、現状の取組みはよくわかったが、現在、新羽地域が抱えている地域福祉の課題をどうとらえているのか伺いたい。

(法 人) 古くから居住する方は顔のつながりがあり、地域で見守る体制がある。一方、都市部エリアでは、マンションで一人暮らしの方や町内会に所属していない方がおり、地域とつながれていない。また、地域も把握できていない状況にある。このような方たちとどうつながれるかが課題と考えており、ケアプラザの全スタッフが出向いていき顔を覚えてもらえるよう取組んでいる。引き続き継続していきたい。

(委 員) 実績は何かあるのか。

(法 人) 実績として、あらゆる福祉相談にあたる「総合相談」の件数が、1～2年目から3年目で倍増している。

(委 員) 利用者のニーズを拾う仕組みは様々あることがわかったが、苦情対応について心掛けていること。また、苦情対応の仕組みがあれば詳しく伺いたい。

(法 人) いただいた意見へは早く回答することと、職員間での情報共有を心掛けている。利用者団体を対象に年2回の説明会を開催している。ケアプラザからの注意やお願い事項を伝えるとともに、利用者からの意見を把握する機会としている。改善対応には、地域活動交流部門が担当し、チームで対応にあたっている。

(委 員) 今後、利用者が増加すると、スムーズで公平なルールが大切になってくると思うが、事業計画に記載のある「公平でわかりやすい利用ルール」を具体的に説明していただきたい。

(法 人) 月1回の予約会を開催している。予約会の中で利用者団体から意見をいただきながら、利用者団体とスタッフが一緒にその場でルールの改善を図っている。

(委 員) 利用団体が増えていると思うが、学習室やプレイルームの利用しやすい環境の対応はどうしているのか。

(法 人) プレイルームは、予約は行わず常時開放しているため、現状、夜まで利用がある状況である。課題は学習室の確保で、利用のない貸室を学習室として開放することで確保している。今後の課題は、利用者団体が増加しているため、予約が取れない、取りづらい団体が利用できるようにすることと考えている。

(委 員) コミュニティハウス専任の職員配置について、所長のみしか配置されていないように見えるが、課題などがあれば伺いたい。

(法 人) ケアプラザには、地域活動交流部門があり、専任のコーディネーター及びサブコーディネーター数名からなるチームで配置している。専任としては所長名のみを記載しているが、2施設の一体運営を強みとして、地域活動交流部門のチームがコミハの運営を兼務して担っている。今後は、利用者団体が増加していることから、活動の支援や地域活動、ボランティア活動への移行を支援するため、コミュニティハウス専任のスタッフを配置したいと考えている。

## 2 審査・選定

財務状況評価について報告。

### 【審査結果】

| 施設名                            | 応募法人名       | 得点            |
|--------------------------------|-------------|---------------|
| 横浜市新羽地域ケアプラザ<br>横浜市新羽コミュニティハウス | 社会福祉法人横浜共生会 | 1,123点/1,380点 |

審査の結果、最低制限基準の総合計の6割を満たしているため、応募法人を指定候補者に選定することを全員一致で決定。

### 【委員講評】

事前応募書類からでは、読み取れない部分が散見されましたが、質疑応答で補うことで非常に熱心に取り組まれていることが感じ取れた。また、質疑応答に対して真摯に回答する姿勢から、評価は妥当な結果である。

一方で、地域分析が弱く、新羽地域における固有課題を抱えていると思うが、事業計画書からはその課題分析を読み取ることは難しかった。各施設には各々の役割があるので、まずは、各施設における課題分析を行い、今後の取組みを計画いただきたい。その上で合築施設の強みを活かした総合的な取組みを計画していただくと整理されると思う。

また、今後期待するのは、法人理念でもあるノーマライゼーションの考え方から、地域共生社会を目指して日々取り組んでいただいていると思うが、障害のある方とそうでない方との共生及び交流の取組みを工夫していただきたい。